

道の駅を活用した地域との連携

加納 優貴¹・小田 桐 潔

¹首都国道事務所 計画課 (〒271-0072 千葉県松戸市竹ヶ花86)

「道の駅」は、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供と地域振興に寄与することを目的として、主に「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の3つの機能の役割を担っている。首都国道事務所管内では、道の駅「いちかわ」が、東京外かく環状道路（千葉県区間）の開通に合わせ「都心に一番近い道の駅」として2018年に開業している。この道の駅「いちかわ」において、地域との交流連携を目的として、各種パネル展等を実施している。本報告は、その取り組みを紹介するものである。

キーワード 道の駅、地域連携、パネル展、自走式AIロボット

1. はじめに

「道の駅」の登録制度が1993年に開始し、初回登録の103箇所から2025年1月現在で全国で1230箇所が登録されている。道の駅は、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供と地域振興に寄与することを目的としている。また24時間無料で利用できる駐車場・トイレを提供する「休憩機能」、道路情報や地域の観光情報などを提供する「情報発信機能」、文化教養施設や観光レクリエーション施設などの地域振興施設としての「地域連携機能」の3つの機能の役割を担っている。このように道の駅は、道路利用者の休憩の場としてのイメージが強かったが、2007年7月の新潟県中越沖地震や2011年3月の東日本大震災等では避難所や災害復旧拠点等として活用されたこともあり、道の駅の第4機能として「防災機能」を備えることに対し期待が高まってきている。

2. 道の駅について

(1) 道の駅第3ステージ

道の駅は1993年に第1ステージ「通過する道路利用者のサービス提供の場」として誕生した。その後2013年には第2ステージ「道の駅自体が目的地」として地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展、2020年には第3ステージ「地方創生・観光を加速する拠点」として自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを官民の力を合わせて加速させ、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献することを目的としている。2025年までに目指す3つの姿として「道の駅を

世界ブランドへ」「新防災道の駅が全国の安心拠点に」「あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに」を設定している。この取り組みの一環として、都道府県の地域防災計画等で、広域的な防災拠点に位置づけられている道の駅については、「防災道の駅」として選定されているところもある。

(2) 道の駅「いちかわ」

道の駅「いちかわ」は、千葉縣市川市を通る東京外かく環状道路(千葉県区間)(以下、外環)沿いに位置し、都心に一番近い道の駅として2018年4月7日に開業した。駐車台数は大型・小型合わせて約120台。「地元で愛される、洗練された道の駅」をコンセプトに、敷地内にはレストランやカフェ、地元特産品を販売するショップ、ラウンジやカルチャースペース等といった地域振興施設が存在する。また、防災施設、24時間利用できるトイレ、情報提供施設を備えている。



図-1 道の駅「いちかわ」

(3) 防災施設と情報提供施設

道の駅「いちかわ」は、市川市の防災計画に防災

拠点として位置づけられ、市川市と災害協定を結んでいる。またBCP計画(関東地方整備局業務継続計画)として、災害時に優先的に実施すべき業務を特定し、業務の執行体制や対応手順、継続に必要な資源の確保等をあらかじめ定める計画を作成し、災害に備えている。また「防災拠点自動車駐車場」にも指定されており、災害が発生した際は広域災害応急対策の防災拠点の役割を担う。道の駅「いちかわ」の防災施設には、防災倉庫や防災トイレ(8基)、非常用発電機、受水槽など、防災拠点として万が一の災害時に機能が発揮できるよう備えている。



図-2 防災トイレと防災倉庫

情報提供施設では、モニターやポスターで交通情報や防災情報、観光情報、事務所の事業紹介などを動画による情報を提供している。



図-3 情報提供施設

3. 道の駅を活用した地域との連携

(1) パネル展の目的と内容

首都国道事務所では、道の駅「いちかわ」の情報提供施設のオープンスペースを活用し、期間限定のパネル展を年に数回ほど実施している。

昨年度は、1923年9月1日に発生した関東大震災から100年を迎える節目の年であったことから、日頃からの災害への備えを促すことを目的とした防災パネル展と2024年1月1日に発生した能登半島地震の際に事務所から派遣した「テックフォース」の活動状況のパ

ネル展などを実施した。

今年度も、8月に「外環開通後の整備効果」、「道の駅」に関するパネル展を行い、併せて道路に関するアンケート調査を実施した。また展示期間中の8月25日(日)には市川市主催のイベント「夏レク」が併せて開催され、子供から大人まで多くの方に参加いただいた。



図-4 パネル展の様子

この他、9月には「防災の日」にちなみ防災への認識を深めてもらうための「防災」に関するパネル展、10月～11月には、地元市川市の小学生に夏休みの絵画コンクールとして募集した交通安全・道の駅「いちかわ」の駐車場利用マナーに関するポスターコンクールの作品展を開催した。



図-5 表彰式の様子

(2) パネル展での工夫

8月に実施したパネル展では、展示されているパネルの詳細な説明をする説明員として「自走式AIロボット」(以下、ロボット)を活用した。ロボットを活用した理由は、自律移動が可能であるため、来場者をブース内に誘導し、特定の展示物の案内ができること、AI機能によりロボットと来場者の双方向でやりとりができるため、幅広い年代に対し、パネルの内容の理解を深めてい



図-6 自走式AIロボット

ただことができると思ったためである。ロボットによるパネルの説明にあたっては、職員（私自身）が説明している動画をロボットに搭載し、パネルを見ていただいている来場者と職員の距離が近く感じられるよう工夫を行った。

また、アンケートブースを設け、ロボットによりアンケートへ誘導を行った結果、多くの回答数を得ることができた。



図-7 ロボットが説明している様子

(3) アンケート結果

①道の駅「いちかわ」、②外環の開通後の変化と満足度、③ロボットによる説明についてアンケートを行った。

①道の駅「いちかわ」については、利用目的・どんな情報が役に立つか・期待するものを伺った。これらの結果を以下の図8~10に示す。

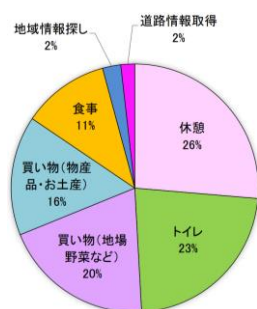


図-8 利用目的

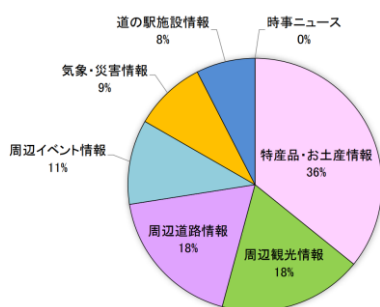


図-9 役立つ情報

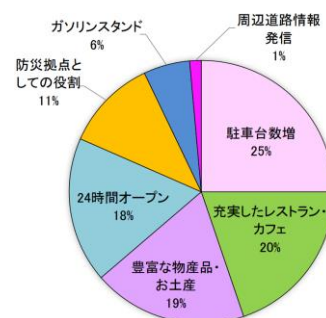


図-10 期待するもの

利用目的は、トイレを含めた休憩がほぼ半数を占めており、その次に多かったのが市川市ならではの梨などの物産品やお土産、地場野菜などを求めて買い物に来られる割合が多かった。利用者が役立つと考えている情報では、特産品やお土産情報といった市川市における地域情報や道の駅「いちかわ」近郊の観光情報が半数以上を占めた。その次に多かった渋滞などの周辺道路情報は個人的には、1番と想定していたが、スマホで簡単に道路情報を入手しやすいこともあって、18%とそこまで多くない結果となった。以上のアンケート結果からも、道の駅「いちかわ」が、利用者にとって「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」の役割を十分果たしていると言える。今後期待するものとしては、駐車台数を増やすことが1番多く挙げられた。現在、道の駅「いちかわ」では道の駅の利用者ではない方の長時間駐車により、常に駐車場が満車状態であるといった事象が発生している。都市部であり駐車面積が限られているため、今後は、AIカメラによる駐車車両の動向確認や長時間駐車車両の警備をより一層強化し、スムーズな駐車場の確保につなげる必要があると考える。

②外環については、開通後の変化と満足度を伺った。結果を以下の図-11と図-12に示す。

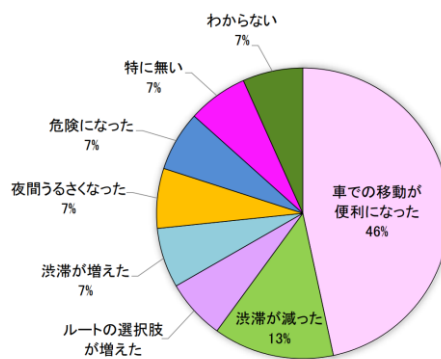


図-11 外環が開通してからの変化

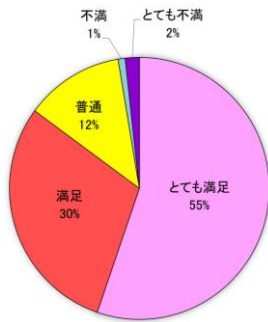


図-12 外環への満足度

外環が開通して、車での移動が便利になったという回答が46%と1番多く、千葉県から埼玉県や群馬県など北関東方面に行きやすくなり、レジャーや物流などの利便性が向上し、外環は道路利用者の生活に大きな影響を与えていることが明らかになった。また、市川市内を走る県道や生活道路を利用していた交通が外環を利用することで渋滞が減少した、首都高速や他の一般国道が渋滞や通行止めになった場合の代替路として機能し、ルートを選択肢が増えたといった回答もあった。これにより、生活道路の交通量が減少し、通学路の安全性も向上している。外環への満足度は、「とても満足」「満足」の回答が合わせて85%あり、満足度が高い結果となった。

③ロボットについてのアンケート結果を以下の図-13と図-14に示す。

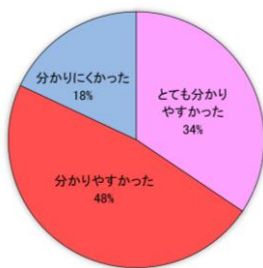


図-13 説明の分かりやすさ

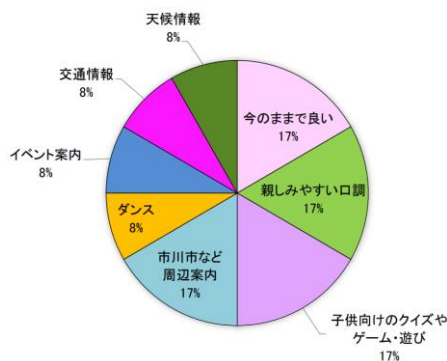


図-14 ロボットにやってほしいこと

ロボットを活用した説明について、わかりやすいとの回答が約80%であった。パネルだけでの解説ではなく、ロボットに説明動画を掲載したことで、パネルの内容（外環の特徴、道の駅「いちかわ」の防災施設、「テックフォース」活動など）をより的確に伝えることができたと言える。

またロボットにやってほしいこととして、子供向けのレクリエーションや市川市などの周辺市町村の案内、ロボットに交通情報を掲載するなど様々なご意見をいただいたので、今後の参考としたい。

(4) その他の活動

道の駅「いちかわ」では、地元市川市、建設会社などと連携した防災訓練を実施している。災害対策本部車や三輪バイクなどを活用し、道の駅「いちかわ」が災害時の防災拠点としての役割もあることを地域の方々にもPRしている。

4. おわりに

道の駅は、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献していくものであり、道の駅「いちかわ」では、さらなる防災機能の充実、情報発信施設としても、わかりやすい道路情報等の発信の工夫に努めたい。

今回のパネル展で、ロボットを活用したことにより、幅広い年齢層の方々に自分たちが伝えたいことに興味・関心を持っていただくことができたと考ええる。ロボットの使用には制限があるが、イベント開催時以外でも道の駅にロボットを設置することができれば、道の駅へ興味を持っていただく機会が広がると考える。

また事務所事業のPRとして、外環の大規模な工事の映像を情報提供施設で紹介するなど、地域の方々に道路に対し興味・関心を持っていただき、今後、当事務所で整備を進めていく北千葉道路への期待感の高まりに繋がればと考える。

今後も、都心に一番近い道の駅の特徴を活かしつつ、更なる地域連携に向けて、楽しく創意工夫に努めていきたい。

参考文献

1)公益社団法人日本都市計画学会 都市計画報告集 No.14,2016年,田中陽大,川崎 興太: 道の駅の防災機能に関する現状と今後の課題-福島県内の道の駅を事例に-